

8 学校アクションプラン

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	主体的に学習に取り組む態度の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・自分の学習状況を自己診断できず、自らの学習を調整できていない生徒がいる。 		
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたり、授業以外の学習時間	②自ら学習改善するための工夫をする態度の育成 ・自分の学習状況を自己判断し、学習改善に取り組んだかを4点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査)	
	・各学年平均600分以上	・各学年3点以上(4点満点)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、朝学習をはじめ授業以外の時間にも学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細やかな面接指導、助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。 		
達成度	第1学年 402分(現2年の1年次585分) 第2学年 592分(現3年の2年次477分) 第3学年 700分(前年度739分) 平均 566分(前年度605分)	1学期末調査結果 第1学年 2.9点 第2学年 3.0点 第3学年 3.4点 平均 3.1点	2学期末調査結果 第1学年 3.2点 第2学年 3.1点 第3学年 3.3点 平均 3.2点
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間だけでなく各自の家庭学習の取り組み方や具体的な学習方法についても指導・助言を粘り強く行った。 ・3年は進路決定に向けて6月から各自の実態に合わせた個別指導を実施した。 ・3年は2学期期末考査以降、共通テストに向けた特別編成授業を行った。 ・共通テスト受験者を対象として、放課後に8限補習を開講し、さらなる学力向上を図った。 		
評 価	1年:C 2年:A 3年:A		A
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の学習時間について、取り組みをはじめたとのことで今後の時間増を期待したい。次年度新入生へは早いうちから習慣定着の取り組みを始めることが必要だと思う。 ・学業との両立を目指しつつも、部活動に重点を置く生徒一人ひとりの状況に合わせ、納得感のある目標や指導のあり方を模索してほしい願う。 		
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生:基礎的な学習習慣の定着へ向け、早期に取り組むを開始できるよう準備を進める。 ・2年:進学に向けた課題学習を開始した。取り組みが効果的に行われるよう継続的な指導を行う。 ・3年:学習内容の確実な定着に向けた学習改善が課題。各自の特性や得意科目を伸ばすことを足がかりにした指導。 ・定期的に生徒と面談を行い、生徒一人ひとりの個性や状況に合わせた、柔軟な指導を行う。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時に、交通ルールに対する安易な行動(歩きスマホ等)が時々見られる。 ・スマホを長時間、夜遅くまで使用するため、授業中眠そうにしている生徒も見受けられる。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が濃密になりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・不安や緊張に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、体調不良を訴える生徒が増えている。また、睡眠に対する正しい知識が乏しく、週初めに寝不足の傾向がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①スマホを正しく使える生徒 ・生徒会のスマホルールを守れる生徒80%以上 ・自分で作るスマホルールを守れる生徒50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ②質の良い睡眠をとる意識の向上 ・睡眠の質についてチェックシートで調査し、「睡眠の質が良い」と回答する生徒の割合
		<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の調査で「良い」の回答が10%以上増加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会のスマホルールを周知し、毎学期末に守れたかどうか、5段階評価する。 ・ゲームや動画視聴等のルールを自分で作り、毎学期末に守れたかどうか、5段階評価する。 ・正しい使い方について考える機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR等を利用して、質の良い睡眠とはどのようなものか理解させ、それを踏まえて自分はどうすべきか考えさせる。 ・保健だより、給食だより、生徒厚生委員会の活動を通して、情報提供をする。 ・保健室での保健指導や、生徒寮での舎監による指導を行う。
達成度	<p>アンケート結果は次の通りで、目標を達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会のスマホルールを守れた生徒 1学期末89%、2学期末91% ・自分で作るスマホルールを守れた生徒 1学期末68%、2学期末59% 	<p>睡眠の質のアンケート結果(7月と8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30分以上寝つけない まったく・あまりあてはまらない66.1% → 72.4% 良い回答が 6.3%増加 ・深く眠れた感じがしない まったく・あまりあてはまらない45.8% → 48.3% 良い回答が 2.5%増加
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン利用に関するルールを毎年更新しており、今年度もリーダー研修会にて見直しを実施した。校則の意義を含め、「なぜ規則が必要か」を本質的に考える機会を設けた。 ・1学期末に自分で作るルールを、各自で見直すことによって自律的な活用の意識を高めることができた。 ・ネットトラブル防止講座を開催し、SNS等のリスク管理やスマートフォンの適切な使用方法について、生徒一人ひとりに深い思考を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による睡眠に関する講演会を行った。 ・7月と8月に睡眠に関するアンケートを実施し、生徒自身が自身の生活リズムを客観的に把握・評価する機会を設けた。 ・厚生委員会が文化発表会や学校保健委員会で「本校生徒の睡眠実態」の調査結果を発表した。併せて、啓発ポスターを制作・掲示し、生徒への意識付けを図った。 ・保健だより、給食だよりを通して、睡眠に関する情報提供を行った。
評 価	A	C
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりを守ることと同時に、危険回避や健康管理の重要性を学ぶ機会としても、大切にしてほしい。 ・子どもたちが情報社会を賢く生き抜くために、スマホやネットの利便性とリスクの両面を学ぶ機会を、今後も計画的に継続していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の質はスマホアプリでも解析可能であり、参考にしてほしい。 ・質の良い睡眠への意識を高めることが、個々の健康維持だけでなく、抱えている悩みにも寄り添い、解決へとつなげる大切な第一歩になることを期待する。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作るルールが曖昧な表現で、評価しにくいと思われるものもあった。 ・生徒会を中心に、毎年スマホルールを見直しているが、全生徒を巻き込んでルールについて考える機会を設け、納得したルールを作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30分以上寝つけない、深く眠れた感じがしない生徒が少しいるので、睡眠の量や入眠時間など睡眠に関する継続した意識づけが必要である。 ・睡眠の質の改善するためにスマホの使い方や入眠しやすくなる食事の情報提供を続ける。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	主体的に進路を選択する力と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望先は、大学・短期大学・専門学校への進学、就職と多様である。また、生徒間の学力差が大きく、進路実現のために必要な学力と実際との乖離が大きい生徒も少なくない。 ・進路実現のためには、早期に進路目標を設定し、その実現に必要な能力の育成に十分な時間をかけることが重要であるが、明確な目標が定まらないままに最終学年を迎える生徒が少なくない。 ・主体的に進路を選択する力を育成するために、学校においては、適性検査や進路ガイダンス、職業講話、進路見学会などの行事を系統的に実施し、自己理解や学問・職業、入試・就職制度への理解を促している。さらに、オープンキャンパスやインターンシップなどへの参加を利用して、進路希望先の具体化・明確化を促している。 ・令和元年度より外部模試を主に大学進学希望者を対象とする希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入している「高校生のための学びの基礎診断」として、現在は1学期にスタディサポート(ベネッセ)、3学期に実力診断テスト(ベネッセ)を実施しており、生徒の基礎学力の判断指標とし、全体及び生徒個々の教科指導と進路指導に生かしている。 	
達成目標	①早期の進路希望の明確化 各段階に応じて、進路希望を明確にできる生徒の割合	②進路支援に対する満足度の向上 個々の進路希望に応じた進路支援に対する生徒の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年：進路希望調査 進学希望校種・学部や就職希望が定まっている割合 80%以上(2学期末、2月末時点) ・2学年：進路希望調査 志望校名・学部・学科や希望業種が定まっている割合 80%以上(2学期末、2月末時点) ・3学年：進路希望調査 出願希望校・就職希望企業業種が定まっている割合 90%以上(8月末時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年： 進路支援に対する生徒の満足度 (学校の支援・指導が役に立ったと感じた割合) 90%以上(1学期末、2学期末時点)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査や進路ガイダンス、職業講話、進路見学会などの行事を系統的に実施し、自己理解や学問・職業、入試・就職制度への多角的な理解を促す。 ・オープンキャンパスやインターンシップなどへの参加と、参加前後の面談を通して、志望進路の明確化と具体化を図る。 ・進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が十分な合意のもとに進路を選択できるような支援する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年 45.0%(2学期末時点) ・2学年 87.5%(2学期末時点) ・3学年 95.5%(8月末時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年 95.5%(2学期末時点)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の進路ガイダンスのなかで、2年生に対して学校説明会(大学・短期大学・専門学校)を実施した。 ・1学期期末考査後～終業式までの6限帯の授業を各学年主導の進路研究の時間とした。そのなかでの活動を踏まえることで、生徒1人1人との進路面談を充実させることができた。 ・1年生は、学問・職業適性検査の結果分析を踏まえ、職業講座(なるには講座)や文理選択に向けた意識づけを行った。 ・2年生は、オープンキャンパスだけでなく、一部生徒には、アカデミック・インターンシップへの参加を促し、事前・事後指導を行った。 ・1・2年生を対して、職業講座(スペシャリストに聞く)を実施し、将来の職業選択への意識づけを行った。 	
評 価	1年:C 2年:A 3年:A	A
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の段階から自己理解と進路探究を深めることが、学校の魅力向上、ひいては全国からの応募増への確かな一歩となることを願う。 ・多様なキャリアを歩む先輩たちとの交流を通じて、進路をより広い視点で捉えられるような場を設ければどうか。 	
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの進路関連行事の意味を生徒に十分に理解させながら、できるだけ早期に志望を明確にさせ、対策に必要な時間を十分に確保することが重要である。 ・文理選択や入試方式、奨学金などについて、保護者との情報共有を密にして、学校・生徒本人・保護者との間で認識に齟齬が生じないように務める。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜入試を希望する生徒のニーズにも応えるため、早めに生徒の進路希望・学力を把握し、個別指導や適切な教材の提供などによって、1年次から学力の維持・向上を図る必要がある。学力・学習状況の把握を通じ、一般選抜入試に対応できる学力上位層のグループの生徒を早期に意識づけ、取り組みをはじめることが必要である。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒主体の学校づくりを目指している。生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分もある。 ・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。 ・小中高合同運動会、球技大会、文化発表会など、生徒が積極的に取り組んできた行事は多いが、コロナ禍で行事が中止もしくは縮小・制限され、モチベーションが低下気味である。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①学校行事や生徒会行事等での満足度 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:あまり満足できなかった、1:満足できなかった)	②読書習慣の確立 ・生徒が良書に触れることを目的とする。年間読書の目標冊数を生徒各自が設定する。
	・すべての行事で、4以上の生徒が75%以上	・年間読書冊数の目標を達成した生徒が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を大切にしたい運営、事前の準備を大切にしたい。 ・多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てる。 ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てる。 ・アンケートでは、楽しかったかどうかだけでなく自分が成長できたかなどの観点も考慮させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で毎週朝読書の日を設け、生徒全員が読書に取り組める機会を増やす。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫に生徒が関心を高めるの蔵書を増やす。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 ・読書調査記録表に読んだ本の冊数を記入し、読書量を意識させる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が4以上の生徒の割合は次の通りで、目標を達成することができた。 小中高合同運動会93% 球技大会78% 文化発表会82% 台湾修学旅行100% 五箇山探究(茅刈り、金沢探究)80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自の年間読書目標冊数に到達している生徒は約74%である。 (※4月から12月までの期間における暫定冊数) 1年生73%、2年生75%、3年生73% しかしながら、4月から12月の間、読書冊数0の生徒が1年生1名、2年生2名、3年生3名いる。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会等を通して、リーダーの自覚を促すとともに、生徒主体で企画・準備に取り組める積極性を育んだ。 ・生徒の自主性を大切に、多くの生徒が準備に加われるように計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年定期的に朝読書を実施した。 ・図書室を生徒が学習や読書がしやすくなるように環境整備をした。貸出カウンターの改修や新着図書専用棚の設置により、貸出冊数が前年を上回った。 ・7月の選書アンケートに基づき、生徒の興味に即した図書を拡充した。 ・教室前に「出張図書」を配置し、本に触れる機会を日常化した。
評 価	A	B
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習はもちろんのこと、特別活動が充実していることは、豊かな高校生活を送り、一生の思い出を作る上で極めて重要であると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「出張図書」などの日常的な仕掛けが貸出増につながった点は非常に好ましい変化である。 ・学校内の蔵書数に限界があるなかで、市の図書館の活用を検討するという方針は大変有効だと思う。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、準備段階から生徒が主体となって行事を運営していくようにしたい。また、五箇山を体感できる活動も継続していきたい。 ・満足度調査では、学年により75%に満たない行事もあったので、どの学年でも満足度が高くなる工夫をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境整備をした結果、図書室の書籍の貸し出し数は増えた。来年度はより生徒が興味・関心を持つ書籍を増やしたい。 ・市の図書館なども活用していきたい。 ・目標達成者は74%に達したが、依然として読書数0の生徒がいるため、個別のアプローチが必要である。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における生活と学習の質の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は7月、12月、3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、内容に対する保護者の満足度を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒寮で生活する生徒が年々多様化し、そのためひとり一人の学習能力や生活能力の差が激しい。このことから、今年度も昨年度に引き続き、個人に合わせた目標を学期ごとに掲げて努力させたい。これまでこの取り組みは、寮生活で自分自身を振り返る良い機会となり、寮全体の良い刺激となった。そのため、今年度も2、3年生は昨年度以上の高い目標を設定し、寮生活の活性化をはかっていく必要がある。
達成目標	①本校のHPの内容の充実と更新回数	②寮生活の目標と学習時間の目標の達成率
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の教育活動に関わる内容のHPの記事の更新回数年間60回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が寮生活の目標と学習時間の目標を学期ごとに掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合(毎月のアンケート調査) それぞれの目標達成率75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 本校のHPに学校行事等の記事をその都度掲載し発信する。 各分掌、学年、部活動等の担当者が随時掲載・更新する。 生徒の活動の様子が見える内容の記事を月5回以上掲載・更新する。 更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 生徒、保護者にとって必要なデータを残すよう、古いものについては整理する。 各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2、3年生は頑張れば達成できる範囲にハードルを上げ、現状の生活と学習の質を上げる目標を一人一人に設定させ、振り返りにより自信を持たせる。 それぞれが設定した目標の内容は他の寮生に開示しないが、毎月の目標の達成度を寮内に掲示し、互いに刺激し合うことで自分で立てた目標を常に意識させる。 職員には舎監時に寮生全員分の調査用紙を見てもらい、日頃の指導に役立ててもらおう。
達成度	<p>生徒の教育活動に関わる内容のHPの記事の更新回数：46回(12月24日時点)</p> <p>1月～3月の分を加えると、60回を超えると予想できる。</p>	<p>1学期の達成率(4～7月調査:4回分の平均値)</p> <p>生活目標89% 学習目標96%</p> <p>(生活目標 R6/94% R5/95% R4/97%)</p> <p>(学習目標 R6/92% R5/93% R4/95%)</p> <p>2学期の達成率(9～12月調査:4回分の平均値)</p> <p>生活目標95% 学習目標83%</p> <p>(生活目標 R6・96% R5・95% R4・93%)</p> <p>(学習目標 R6・96% R5・99% R4・97%)</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> HP担当者のみならず、各分掌・学年・部活動顧問による直接更新をし、全校的な発信体制を構築した。 行事実施から掲載までの期間を短縮し、生徒の活動をタイムリーに伝える記事が増加した。 12月時点で46回更新。月5回以上のペースを維持しており、年度末には目標(60回)を達成する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期始めに、各自生活面と学習面における頑張りたい目標を設定し、毎月達成度の調査を実施した。 寮生が記入した目標や自己評価は、職員間で共有し生徒指導の一助とした。 学年と男女別に達成率を毎月公表し、寮生活における自己の取り組みを確認する機会を設けた。 今年度より入寮した全国募集生徒6名も、他生徒と遜色なく良好に活動した。 どの寮生も自分の取り組みについて冷静に評価し、達成感を感じたり、反省をする良い機会となった。 1学期の生活目標達成率が例年より低迷したのは、中心学年である2年生が多忙により目標の「規則正しい生活」を完遂できなかったことが主因と考えられる。 2学期の学習目標達成率の低下は、1・2年生が実力以上に高い学習計画を設定したことによるものと推察される。
評 価	B	
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流が、より積極的に行われることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や文化交流に加え、ボランティア活動や座談会といった多様な交流の形も検討されることを期待する。 今後、全国募集生の多様性が増したとしても、個々の目標に合わせたきめ細かな指導を行うという本校の伝統を、さらに深化させていくべきだと感じている。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> HPに関心をもって閲覧してくださる保護者が多くなった。またHPに対する要望も多くなってきた。それらに応えるようさらに内容を充実させたい。 《保護者からの要望》 部活動の成績を最新のものに更新する。 年間、毎月の行事予定を早めに掲載する。 記事数は増えたが、今後は保護者の満足度をより高めるため、写真の活用や構成の工夫など内容のさらなる充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も全国から生徒が来る可能性が高く、さらなる意識の多様化が予想されるため、統一した目標より一人ひとりに合った目標を設定させ、それに向けて努力させる方が合っているように思われる。 今年度も、感染防止対策「手洗い・うがい」の実施を毎月調査し、1・2学期全体における「だいたいできている」以上の割合は100%であり、寮内における感染症の蔓延もなかった。防止対策の呼びかけと共に、この調査も継続して意識を高めていった方が良かったと思った。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)